

# 業務瓦版

2014年12月28日

第 25 号

JR東海労新幹線地本  
業 務 部

## 平成27年度に新たな効率化を準備！！

### 「車両データの活用による検修体制の見直しについて」が提示される！

2014年12月24日、業務委員会が開催されました。その中で会社から「車両データの活用による検修体制の見直しについて」と題するあらたな効率化についての提示がありました。

しかし今回の内容は、交番検査と仕業検査の効率化を平成27年度内に実施するということを示したに過ぎず、具体的内容はまったく示めされませんでした。特に要員の増減については規模も時期も『検討中であり、成案ができれば提示する』にとどまり、なんら明らかにされませんでした。

私たちは、『**要員削減は安全確保を損なう！労働強化は認めない！**』と反対であることを明らかにし、強く訴えました。

提示された内容は以下のとおりです。

#### 【 車両データの活用等による検修体制の見直しについて 】

##### 1. 概要

新幹線車両については、これまで走行中の各機器の状態を確認できるデータ（以下「車両データ」という）を取得・分析することで、故障の未然防止に活かしてきたところである。更に、地上側からも車両データを監視できる新たな設備を開発し、監視設備から取得できるデータを分析することで、更なる検査の充実を図ることができる見通しを得た。

このため、新たに必要な設備を整備し、車両データの活用を一層進めることにより、新幹線車両の検修体制の見直しを行うこととする。

##### 2. 実施内容

- ・車両データを活用し、仕業検査、交番検査並びに走行管理業務を見直す。
- ・上記見直しにあたっては、東京、大阪の各仕業検査車両所に車両データを分析する組織を設置するとともに、以下の設備の整備、改良を行う。

- 車両検修管理システム（ARIS）改良
- 車上データ伝送装置（SS無線）増設
- 台車温度検知装置（地上側設備）の新設
- 屋根上点検扉等の改良 等

##### 3. 実施時期 平成27年度内

##### 4. その他 要員増減については別途提示する

# 実施内容の断片が見え隠れ！

組合：「仕業検査車両所に車両データを分析する組織を設置する」とあるが、従来のパートの中に置くのか、まったく新たにつくるのか。

会社：新たに組織をつくることを考えている。

組合：何名の規模なのか。

会社：まだ決まっていない。

組合：「車両検修管理システム（ARIS）改良」とはどのようなイメージなのか。

会社：車両データが地上側とかSS無線を増設することによりデータが色々とれるため、ARISの容量を増強するということである。入力の方法が変わるとかではない。

組合：「車上データ伝送装置（SS無線）増設」とは、どのようなことなのか。

会社：車上のデータを地上に飛ばす装置になるので地上側の装置を増設する。

組合：「台車温度検知装置（地上側設備）の新設」とはどのようなことなのか。

会社：技術開発で既に本線に設置している装置があるのでそれを増やす。その上を列車が通過すると、有る程度の速度でも温度を検知できる装置である。

組合：台車温度とは、歯車箱や軸箱などの温度を検知できるということか。

会社：そうである。

組合：技術開発から本使用できる目途が立ったということか。

会社：そうである。

組合：「屋根上点検扉等の改良」とは、どのようなことなのか。

会社：既に検修庫で試使用したが、現行の「命鍵」で入っているものから「IDタグ」を持っていけばそのまま通過できるという装置である。

組合：そのことにより①号車、⑩号車のどちらからでも出入りできるということか。

会社：そうである。

# 工事も要員見直しも平成27年度内に完了させる！と豪語！

組合：車両データを活用するということだが、検査項目などにどう影響するのか。

会社：車両データを大分とれるのでそのデータを使えば、例えば交検では（現在やっている）この項目はやらなくてよいというのがあるのか、など確認している。

組合：検査項目を減らすが、摩耗品など目視で確認しなければならないものは残しつつも、検査時間が減ってくるから要員も減らせるという考えなのか。

会社：そうである。

組合：実施期間が平成27年度内と漠然とした説明だが、27年度中に工事が終わって、本使用は28年度からということか。

会社：27年度内に工事と体制見直しが完了するということである。

組合：27年度中に工事準備が終わって、要員にかかってくるのが28年度からということではないのか。

会社：いや、27年度中に（要員見直しも含めて）全て実施するということである。

# 要員削減と労働強化では安全確保は担保できない！！

組合：要員の増減については別途提示するとあるが、具体的にどのようなことを考えているのか。例えば、仕業検査の要員を減らすだとか、どのパートの要員をどうするだとか。

会社：投資にはお金がかかっているのも当然そういうことも含めて効率的に業務ができるようにとは考えている。

組合：仕業については現在東京は3班体制だが、どのように考えているのか。

会社：どれくらいの項目がデータに置き換えられるかによって、業務がどのように変わるのかということになる。

組合：交検の場合はどのように考えているのか。

会社：検査項目を減らすことが、時間を減らすということにできるのか、要員を減らすということにできるのか、また、班というかたちにできるのか、今後時期がきたら提示する。

組合：人を減らさないということが組合として当然の要求である。人を削って安全を確保することは難しいことである。また、現場には専任社員や高齢者も多くいることから、歩く距離がますます増えることは身体に非常にこたえてくるといえるものがある。労働強化にならないことも強く要求する。

会社：安全は最後は人が大事ですから、そういうことも含めて検討していきたい。

組合：必要によって、あらためて申し入れるのでその際は協議に応じること。

会社：了解。

以上

\*私たち新幹線地本は職場の組合員・社員の声をもとに、安全で働きやすい労働条件及び職場環境の改善に向けて、今後も会社に申し入れを行い問題解決に向け協議していきます。問題点や要望事項等があれば JR 東海労新幹線地本までお知らせ下さい。

電話番号

03-3201-0350

メールアドレス

[jrcushinkansen@yahoo.co.jp](mailto:jrcushinkansen@yahoo.co.jp)

お気軽にアクセスしてください電話番号